

永遠の真理

ETERNAL TRUTH



2013年 7月

「パート1ー贖罪の犠牲 (VII)」 「神の聖所」 「現代の真理」

永遠の真理

いま永遠の真理の土台の上に堅く立ちなさい。(3T p.45)

目次

今月の聖書勉強

「パートI-贖罪の犠牲 (VII)」 4

朝のマナ

「神の聖所」 8
信仰によってわたしは生きる

現代の真理

「現代の真理」 40
三重のメッセージ

力を得るための食事

「ピタパン」 48

お話コーナー

「大使になれる」 50

教会

【正丸教会】

〒368-0071 埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1
電話：0494-22-0465
FAX：0494-26-5059

【高知集会所】

〒780-8015 高知県高知市百石町 1-17-2
電話：088-831-9535

【沖繩集会所】

〒905-2261 沖縄県名護市天仁屋 600-21
電話：0980-55-8136

アクセス

ホームページ：<http://www.4angels.jp>
メール：support@4angels.jp

発行日 2013年6月30日
編集&発行 SDA 改革運動日本ミッション
〒368-0071 秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

Illustrations: Sozai on front cover;
HighRes on pages 48

命の法則—愛の律法—

「神は愛である」(ヨハネ第一 4:16)。神の性質、神の律法は愛である。それは今までもそうであったし、これからも同じである。(人類のあけぼの上巻1)

カルバリーの光に照してみても、おのれを捨てる愛の法則が天と地の生命の法則であること、「自分の利益を求め」ない愛はそのみなもとが神の心にあること、柔和で心のへりくだったおかたのうちに、……神のご品性があらわれていることなどがわかるであろう(コリント第一 13:5)。(各時代の希望上巻2)

イエスを見ると、われわれは、与えることがわれらの神の栄光であることがわかる。「わたしは自分からは何もせず」、「生ける父がわたしをつかわされ、また、わたしが父によって生きている」。「わたしは自分の栄光を求めてはいない」「自分をつかわされた方の栄光を求める」とキリストは言われた(ヨハネ 8:28, 6:57, 8:50, 7:18)。これらのことばの中に、宇宙の生命の法則である大原則が示されている。すべてのものをキリストは神からお受けになったが、彼は与えるためにお受けになったのである。……愛するみ子を通して、天父の生命はすべてのものに向かって流れ出る。み子を通して、それは賛美とよこびの奉仕のうちに、愛の潮流となって、すべてのものの根源である神へもどって行く。このようにキリストを通して愛の循環が完成され、それは偉大な賦与者であられる神のご品性—生命の法則を象徴している。(各時代の希望上巻3, 4)

体内の生命の流れを調節する心臓の働きを支配する法則は、魂の裁判権をお持ちになる偉大な英知の神の法則である。いっさいの生命は神から出ている。生命の真の活動範囲は、神との調和の中にのみ見いだされる。神によって造られたすべてのものにとって、条件は同一である。すなわち生命は神の生命を受けることによって維持され、創造主のみこころとの調和の中に生命の営みがなされるのである。知的に靈的に、あるいは肉体的に神の法則を犯すことは、自分自身を宇宙の調和の外におくことであり、不和と無秩序と破滅をもたらすことである。(教育 104)

愛の律法が神の統治の基礎であるから、すべての知的存在者の幸福は、その偉大な義の原則に彼らが完全に一致することにかかっている。神は、造られたすべてのものから愛の奉仕、すなわち、神の品性を理解することによってわきおこってくる崇敬を受けることを望まれる。(人類のあけぼの上巻3)

贖罪

パート I - 贖罪の犠牲 (VII)

XIV. 神聖な愛の結果なる贖罪

キリストの贖罪は、神が憎んでおられる人々を愛するように促すためになされたものではない。またそれは存在していなかった愛を産出するためになされたものでもない。そうではなく、すでに神のみ心のうちにあった愛の現れとしてなされたのである。天の知的存在者が見ている前で、墮落していない諸世界が見ている前で、また墮落した人類が見ている前で、神聖な恩寵の具体的な現れとしてなされた。……わたしたちはキリストがわたしたちのために死なれたがゆえに、神がわたしたちを愛して下さるという考えをいだくべきではない。かえって、神はそのひとり子を賜ったほどにわたしたちを愛して下さったのである。(ザイン・オブ・タイム 1893年5月30日)

救い主が民の前で上げられたとき、人々はこのお方の屈辱、自己否定、自己犠牲、いつくしみ深さ、優しい同情、墮落した人類を救うための苦悩を見るのである。そして、キリストの贖罪は神の愛の原因ではなく、結果であることを悟るようになる。(レビュー・アンド・ワールド 1890年9月2日)

御父がわたしたちを愛されるのは、大いなるあがないの供え物のゆえではなく、かえって御父がわたしたちを愛されるがゆえにあがないの供え物を備えて下さったのである。キリストは神がご自分の無限の愛を墮落した世に注ぎ出すことのできる媒介であられた。「神はキリストにおいて世をご自分に和解させ」られた。神は、ゲッセマネの苦悩において、カルバリーの死において御子と共に苦しまれた。無限の愛の心は、わたしたちの贖い代の代価を支払われた。(家庭伝道 1893年4月)

XV. 人の必要よりも大きな贖罪の備え

正義は人の苦悩を要求した。神と等しいキリストは、神の苦悩をお与えになった。このお方には贖罪は必要なかった。このお方の苦悩はこのお方が犯された

何かの罪のためではなかった。それは人間のため—ことごとく人間のためであった。そしてこのお方の無償の許しは、すべての人の手に届くところにある。キリストの苦悩はこのお方のしみのない純潔さと比例していた。このお方の苦悩の深さはこのお方のご品性の尊厳と偉大さに比例していた。わたしたちは自分たちの救い込まれた穴がどれほど深いのか、人類が有罪宣告を受けている罪がどれほど嘆かわしいものかを悟り、そして信仰によって満ちみちた完全な許しをつかむまでは、しみのない神の小羊の激しい苦悩を理解することは決してできない。(ビュー・アード・ハルド 1886年9月21日)

聖なる神の御子は、神の完全な律法の要求を完全に満たすのに十分な価値をもつ唯一の犠牲であられた。御使たちは罪のないものであったが、神の律法ほどの価値がなかった。彼らは律法に快く従う者であった。キリストのみ旨を行う使者であり、このお方のみ前に頭を垂れた。彼らは被造物であり、試験中の者であった。キリストの上には何の要求も課されていなかった。このお方はご自分の命を捨て、それをまた取り上げる力もあった。このお方には贖罪の働きを引き受けるための何の義務も課されていなかった。このお方が払われたのは自発的な犠牲であった。このお方の命には、人類をその墮落した状態から救うのに十分な価値があった。(ビュー・アード・ハルド 1872年12月17日)

神のいとし子が、ご自身の神聖な人となりのうちに引き受けられた、創造されたものと創造されていないもの、有限なもの無限なものを結びつける働きは、わたしたちが一生の間自分の思想を働かせるのにふさわしい主題である。キリストのこの働きは、失われて滅びつつあるこの世の者を救うのと同様に、無実と忠誠のうちにある諸世界の存在者たちを確かなものとするのであった。このお方は不従順な者に神への忠誠にかえるための道を開かれた。同じ行為によってこのお方はすでに純潔な者のまわりに防壁を築き、そうすることによって汚されることがないようにされた。」(ビュー・アード・ハルド 1881年1月11日)

XVI. 型の犠牲は神の小羊を予表している

犠牲の捧げ物とユダヤ人制度の祭司職は、キリストの死ととりなしの働きを象徴するために制定された。すべてこれらの儀式には、キリスト、すなわちご自身が制度全体の基礎であられ、存在するに至らせたお方と関連づけられているということ以外は、意味も価値もなかった。主はアダムに、アベルに、セツに、エノ

クに、ノアに、そして昔の価値ある人々、特にモーセに、犠牲と祭司職の儀式的な制度は、一人の魂の救いを確保するのにも十分ではないことを知らされた。

犠牲の捧げ物の制度は、キリストを指し示していた。これらを通して、昔の価値ある人々はキリストを見て、このお方を信じた。(ビュー・アソド・ハラルド 1872年12月17日)

キリストはご自分の御父との会議において、犠牲の捧げ物の制度を制定された。それは死がただちに不法者に訪れる代わりに、神の御子という大いなる完全な捧げ物を予表する犠牲に移されるためであった。

民の罪は象徴において、務めをなす祭司すなわち、民のための仲保者に移された。祭司は自分自身が罪の捧げ物となり、自分の命をもって贖罪をなすことはできなかった。なぜなら、彼もまた罪人だったからである。であるから、自分自身が死を受ける代わりに、傷のない小羊を殺した。罪の刑罰は、無垢の獣に移され、こうしてそれは彼の直接の身代わりとなり、イエス・キリストという完全な捧げ物を象徴した。この犠牲の血を通して、人は世の罪のために贖罪をなすキリストの血を、信仰によって前方に見たのであった。(サインズ・オブ・タイムズ 1878年3月14日)

人の前に保たれ、思いと心に刻まれているべき偉大な真理とは、「血を流すことなしには、罪のゆるしはあり得ない」ということである。血を流しているすべての犠牲のうちに、「世の罪を取り除く神の小羊」が象徴されていた。キリストご自身がユダヤ人の礼拝制度の創始者であられ、その中で型と象徴によって、霊的また天来の事柄が影として表されていた。多くの者はこれらの捧げ物の真の意味を忘れた。そしてキリストを通してのみ、罪の許しがあるという偉大な真理が彼らに失われていた。犠牲の捧げ物、すなわち雄牛ややぎの血が増し加わっても、罪を取り除くことはできなかった。(サインズ・オブ・タイムズ 1893年1月2日)

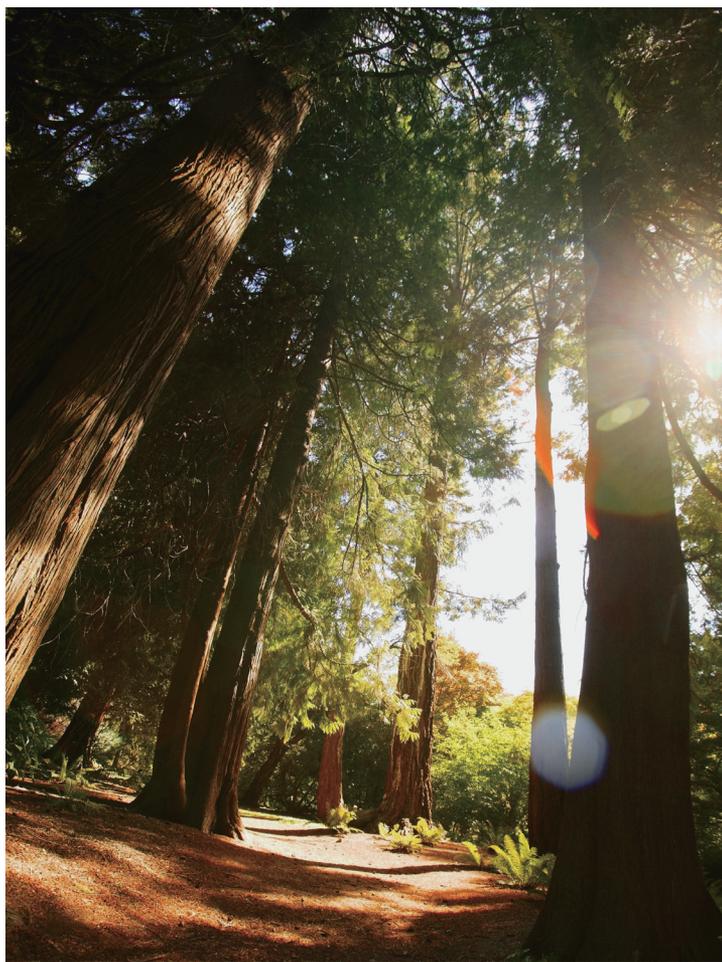
血を流すすべての犠牲のうちに具現化され、すべての儀式において印象づけられ、神ご自身によって計画された偉大な教訓は、キリストの血を通してのみ罪の許しがあるということである。それでいて、なんと多くの人々がいらだたせるくびきを担い、なんとわずかな者が個人的にこの真理の力を感じ、それに基づいて行動していることか、また自分たちが神の小羊の血を信じる完全な信仰、すなわちこのお方を通してのみ罪の許しがあることを悟り、悔い改めるならば大小を問わずこのお方がそれらを許して下さることを信じることによって得られる祝福を

得ている者がなんと少ないことであろう。ああ、救い主はほむべきかな！（手紙 12, 1892 年）

信仰によって、アベルはカインよりもまさったいけにえを神にささげた……彼は、流された血によって、来たるべき犠牲、カルバリーの十字架上のキリストの死を見た。そして、彼は、そこでなされる贖罪を信じて、自分が義とされ、供え物が受け入れられた証拠が与えられた。（人類のあけぼの上巻 68）

信仰によってわたしは生きる

The Faith I Live By



7月 「神の聖所」

主がこの所におられる

「ヤコブは眠りからさめて言った、『まことに主がこの所におられるのに、わたしは知らなかった』。そして彼は恐れて言った、『これはなんという恐るべき所だろう。これは神の家である。これは天の門だ。』」(創世記 28:16, 17)

神に真の崇敬の念を抱くということは、神の無限の偉大さと神の臨在を自覚することによるのである。すべての者は目に見えない神に対して、こうした思いを心から抱かなければならない。祈りの時間と場所は神聖である。なぜなら、神がそこにおられるからである。そして、崇敬の念が態度とふるまいにあらわされるときに、その感じはさらに深まるのである。「そのみ名は聖にして、おそれおおい」と詩篇記者は言っている(詩篇 111:9)。そのみ名を語るとき、天使たちは彼らの顔をおおうのである。もしそうであるならば、墮落した罪深いわれわれは、どんな崇敬の念をもって、それを、われわれの口にしなければならぬことであろう。神の特別な臨在があらわされた場所は、どんなに重要視すべきであるかを示す次のみ言葉を老いも若きもともによく考える必要がある。神は、燃えるしばのところで、「足からくつを脱ぎなさい。あなたが立っているその場所は聖なる地だからである」とモーセに言われた(出エジプト 3:5)。(国と指導者上巻 23, 24)

神は高く聖なるお方である。そして、心低く信じる魂にとって、このお方の民が礼拝のために集う場所である地上の神の家は天の門である。賛美の歌やキリストの牧師たちによって語られるみ言葉は、神が上なる教会のために、すなわち、不純なものは何も入ることのできないより気高い礼拝のために民を準備させようとお定めになった手段である。……神は不遜な思いや行為を一つ一つご覧になり、それは天の書に記録される。……くまなく探られる神の御目には何一つ隠れるものはない。もしあなたが神の家で不注意や無関心な習慣をいくらかでも身につけてきたなら、それを正すために持てる力を働かせなさい。敬虔があなた自身の一部となるまでそれを実践しなさい。(青年への使命 262)

そのみ前に沈黙せよ

「しかし、主はその聖なる宮にいます。全地はそのみ前に沈黙せよ。」(ハバクク 2:20)

クリスチャンは、主がその民とお会いになる場所をどのようにみなすべきかを、地上の聖所に付随していた神聖さから学ぶことができる。宗教的な礼拝に関する民の習慣や風習に大きな変化、すなわち良いほうにではなく、悪いほうに変化があった。わたしたちを神と結びつける尊い神聖な事柄が、わたしたちの思いや心をとらえる力をすみやかに失っており、通常の事柄と同じ水準に下げられつつある。昔、民が聖なる奉仕において神にお会いした聖所に対して持っていた崇敬の念は、ほとんどなくなってしまった。とはいえ、神ご自身がご自分の礼拝に秩序をお与えになり、それを一時的な性質のすべての物の上においておられるのである。

家は家族の者にとって聖所であり、私室や木立などもっとも奥まったところは個人的な礼拝のための場所である。しかし、教会は会衆のための聖所である。(教会への証 5 巻 491)

われわれは、イエスのみ名によって、確信を持ってみ前に出ることができるが、あたかも神がわれわれと同等であられるかのように、無遠慮な態度で近づくべきではない。近づくことのできない光の中に住み、偉大で、全能であられる聖なる神に向かって、あたかも同等か、あるいは目下のものに話かけるような言葉を用いる人がある。また、神の家の中において、地上の王たちの謁見室では決してしないような不謹慎な態度をとる人がある。これらの人々は、自分が今、セラピムたちが賛美をささげる……神のみ前にあるということをおぼえていなければならない。(人類のあけぼの上巻 286)

神を礼拝するために集まる者は、すべての悪事を捨て去らなければならない。彼らが、霊とまことをもって、聖なる装いをして神を拜むのでなければ、彼らが集まるのは無益である。(国と指導者上巻 25)

愛する青年方よ、この地上に神のみ栄えをあらわすことはあなたがたの特権である。そのためには、浅薄なことや、つまらないことや、重要ではないことに心を向けず、永遠の価値のあることに心を向けなければならない。(青年への使命 261)

罪から清める

「その時わたしは言った、『わざわざいなるかな、わたしは滅びるばかりだ。わたしは汚れたくちびるの者で、汚れたくちびるの民の中に住む者であるのに、わたしの目が万軍の主なる王を見たのだから。』（イザヤ 6:5)

預言者イザヤが、主の栄光を眺めたとき、驚愕し、自分自身の弱さと無価値さの意識に圧倒されて、「わざわざいなるかな!……」と彼は叫んだ。

イザヤは他の人々の罪を公然と非難したが、今、彼は自分自身が彼らの上に宣告したのと同じ有罪宣告にさらされているのを見る。彼は神を礼拝するにあたって、冷たい生命のない儀式に満足していた。彼は主についての幻を与えられるまで、このことに気づかなかった。彼が聖所の神聖さと荘厳さとを眺めたとき、自分の知恵と才能とがどれほど小さいものに見えたことであろう。……自分自身に関する彼の見解は、使徒パウロの言葉で表現することができるであろう。「わたしは、なんとというみじめな人間なのだろう。だれが、この死のからだから、救ってくれるだろうか」（ローマ 7:24）。……

「この時セラピムのひとりが火ばしをもって、祭壇の上から取った燃えている炭を手に携え、わたしのところに飛んできて、わたしの口に触れて言った、『見よ、これがあなたのくちびるに触れたので、あなたの悪は除かれ、あなたの罪はゆるされた。』（イザヤ 6:6, 7)。

イザヤに与えられた幻は、終わりの時代の神の民の状態を表わしている。彼らは信仰によって、天の聖所において行われている働きを見る特権が与えられている。……彼らは信仰によって、至聖所の中を眺め、天の聖所におけるキリストの働きを見るとき、自分たちが汚れた唇の民—その唇がしばしばむなしい事を語り、そのタラントが清められず神の栄光のために用いられてない民—であることに気づく。彼らが自分の弱さと無価値さとをキリストの栄光あるご品性の純潔さと美しさに比較して、絶望するのもつともである。しかし、彼らがイザヤのように、主が心に刻もうと計画なさった印象を受けるなら、もし彼らが神の御前に自分の魂をへりくだらせるなら、彼らには希望がある。約束の虹は御座の上であり、イザヤのためになされたその働きが彼らのうちにもなされるのである。(SDA パイブルコメント [E.G. 初作・コメント] 4 卷 1138, 1139)

魂の宮にある御霊

「あなたがたは神の宮であって、神の御霊が自分のうちに宿っていることを知らないのか。」(コリント第一 3:16)

輝く聖なるセラフから人間にいたるまで、すべての被造物は創造主の内住される宮となることが、永遠の昔から神の目的であった。罪のために人類は神の宮とならなくなった。人の心は、悪のために暗くなり、けがれたものとなったので、もはや聖なる神の栄光をあらわさなくなった。しかし神のみ子の受肉によって天の神の目的は達成される。神は人類の中にお住みになり、救いの恵みを通して、人の心はふたたび神の宮となる。

神はエルサレムの宮が、すべての魂にとって可能な高い運命についてのたえまないあかしとなるように計画された。しかしユダヤ人は彼らが非常な誇りをもって見ていた建物の意義を理解していなかった。彼らは自分自身をみたまの聖なる宮としてささげなかった。けがれた商売のそうぞうしきにつつまれていたエルサレムの宮の庭は、肉欲やきよくない思いがはいるこんでけがれている心の宮をそのままあらわしていた。……宮を世俗の売人、買う人からきよめることによって、イエスは、罪のけがれ、すなわち……世俗的な望み、利己的な欲望、悪習慣などから心をきよめられるご自分の使命を宣言された。……

だれも心を占領している悪のかたまりを自力で追い出すことはできない。キリストだけが魂の宮をきよめることができになる。しかし彼ははいることを強制なさらない。主は昔の宮におはいりになったようには心におはいりにはならないで、「見よ、わたしは戸の外に立って、たたいている。だれでもわたしの声を聞いて戸をあけるなら、わたしはその中にはい(る)」と言われる(黙示録 3:20)。主は一日だけのためにおはいりになるのではない。「わたしは彼らの間に住み、かつ出入りをするであろう。……彼らはわたしの民となるであろう」と言われる(コリント第二 6:16)。……主のご臨在は、魂が主の聖なる宮となり、「聖なる神のすまい」となるように、その魂をきよめ、聖化する(エペソ 2:21, 22)。(各時代の希望上巻 186, 187)

両親がその子供たちによい贈り物を与えるよりもっと気持ちよく、主はご自分に仕える人々に聖霊を与えてくださる。(患難から栄光へ上巻 46)

聖所の目的

「また、彼らにわたしのために聖所を造らせなさい。わたしが彼らのうちに住むためである。」(出エジプト 25:8)

「わたしはイスラエルの人々のうちに住んで、彼らの神となるであろう。」「幕屋はわたしの栄光によって聖別されるであろう」というのがモーセに与えられた保証であった(出エジプト 29:45, 43)。(人類のあけぼの上巻 367)

神のお住みになる場所として聖所を建てるにあたって、モーセは、すべてのものを天上にあるものの型に従って作るように命じられた。神はモーセを山に召して、天の事物をお見せになった。そうして、幕屋とこれに付属するすべてのものは、天の事物にならって形作られることになった。

そこで神は、ご自分の住居をつくらせようとお望みになったイスラエル人に、ご自分のかがかやかしい理想の品性を示された。このご品性の型は、神が、シナイ山で律法をおあたえになる際、……かれらに示された。……

しかし、彼らは、自分自身では、この理想に達する能力を持っていなかった。シナイ山においての啓示は、彼らの心に、自分自身の足りなさど無力とを深く思わせただけであった。幕屋で行う儀式の奉仕を通して、もう一つの教訓、すなわち罪の赦しと、救い主に従うことによって生命にいたる能力とについての教訓が、彼らに教えられなければならなかった。

幕屋の壮麗な建物、ケルビムを織り込んだ幕を反映して、にじ色に輝く黄金の壁、常にたかかっている香のために、へやじゅうたちこめているかぐわしい香り、純白の衣をまとった祭司、そして、至聖所の深い神秘につつまれて、契約の箱の上方、頭を垂れて礼拝している天使の像の間に臨在する、聖なる神の栄光—こうした幕屋の象徴の目的は、キリストを通して成就されなければならなかった。こうしたすべての象徴を通して、神は、人の魂についてどんな目的をもっておられるかということを彼らがさとりように望まれた。ずっと後に、使徒パウロによって示されたものも、これと同じ目的であった。すなわちパウロは、聖霊に感じて、こう語っている。

「あなたがたは神の宮であって、神の御霊が自分のうちに宿っていることを知らないのか。もし人が、神の宮を破壊するなら、神はその人を滅ぼすであろう。なぜなら、神の宮は聖なるものであり、そして、あなたがたはその宮なのだからである」と(コリント第一 3:16, 17)。(教育 28, 29)

捧げ物によって建てられた宮

「イスラエルの人々に告げて、わたしのためにささげ物を携えてこさせなさい。すべて、心から喜んでする者から、わたしにささげる物を受け取りなさい。」(出エジプト 25:2)

その大きさと形、使用する材料、内部の造作に関する細かい指示を含めたその構造設計は、神ご自身がモーセにお与えになった。手で造られる幕屋は、「ほんとうのものの模型」「天にあるもののひな型」(ヘブル 9:24, 23) — われわれの大いなる大祭司キリストが、ご自分の生命を犠牲となされた後で、罪人のために奉仕なさる天の神殿のひな型であった。……

聖所の建築には、多額の費用を要する準備が必要であった。貴重で高価な材料が、大量になければならなかった。しかし、主は、心からのささげ物だけをお受けになった。モーセは「すべて、心から喜んでする者から、わたしにささげる物を受け取りなさい」という神の命令を民に繰り返した(出エジプト記 25:2)。まず初めに神への献身と犠牲の精神が、いと高き者のすみかを造るために要求された。

民はみな、いっせいにこれに応じた。「すべて心に感じた者、すべて心から喜んでする者は、会見の幕屋の作業と、そのもろもろの奉仕と、聖なる服とのために、主にささげる物を携えてきた。すなわち、すべて心から喜んでする男女は、鼻輪、耳輪、指輪、首飾り、およびすべての金の飾りを携えてきた。すべての金のささげ物を主にささげる者は、そのようにした」(出エジプト記 35:21, 22)。……

老若の民は一男も女も子供も一ささげ物を続々と持参したので、工事の監督たちは、もうこれで十分集まり、使いきれないほどになったと考えるほどであった。……

すべて神の礼拝を愛し、その聖なる臨在の祝福を重んじる者は、神が彼らと会う家を建てるにあたって同じ犠牲の精神をあらわす。(人類のあけぼの上巻 405 ~ 407)

犠牲を払うべき時があるとすれば、それは今である。(教会への証 6 巻 450)

神の聖所にある力とうるわしき

「誉と、威厳とはそのみ前にあり、力とうるわしきとはその聖所にある。」(詩篇 96:6)

人の創造とその堕落から現代に至るまで、キリストを通して堕落した人類を贖う神のご計画は、絶えず表されてきた。地上における神の幕屋と宮とは天にある原型にかたどられた。聖所とその荘厳な奉仕を中心に、後の世代に発展すべき大真理が神秘的に集約されていた。

神がイスラエルの統治者として認められていた時ほど、神がその偉大さと、高められた大能の証拠をお与えになった時はなかった。目に見えない王の現れは荘厳であり、言葉で言い尽くせないほど、恐るべきものであった。支配権がとられたが、それは人間の手によってとられていたのではなかった。恵みの御座におおわれ、神の聖なる律法を入れてある聖なる契約の箱は、エホバご自身の象徴であった。それは、イスラエルが戦いにおいて勝利する力であった。その前に偶像は倒れ、それを無分別にのぞき見ることによって何千もの人が滅びた。神のみがイスラエルの王として認められていた時ほど、神がご自身の至上権を明らかに現されたことは、この世にかつてなかった。(ビュー・アンド・ワールド 1886年3月2日)

契約の箱におさめられた神の律法は、義と審判の大原則であった。この律法は違反者に死を宣告した。だが、律法の上には贖罪所があり、そこに神の臨在があらわされ、また、そこから、贖罪の力によって、悔い改めた罪人にゆるしが与えられた。こうしてわれわれの贖いのためのキリストのみわざが、聖所の奉仕のなかで象徴され、「いつくしみと、まことは共に会い、義と平和とは互に口づけしたのである(詩篇 85:10)。(人類のあけぼの上巻 411)

わたしたちは、今日、自分たちの救い主が来られたこと、旧約時代の犠牲が罪のための完全な供え物にとってかわられたことを喜ぶ一方で、その時代に対する軽蔑を表わすことは許されない。(ビュー・アンド・ワールド 1886年3月2日)

贖い主、祭司、王

「このように、聖にして、悪も汚れもなく、罪人とは区別され、かつ、もろもろの天よりも高くされている大祭司こそ、わたしたちにとってふさわしいかたである。」
(ヘブル 7:26)

神の指示により、レビ人が聖所の奉仕のために選ばれた。ずっと初期のころには、すべての男子が自分の家族の祭司であった。アブラハムの時代には、祭司職は長男の生まれながらの権利とみなされていた。しかし、主はここで聖所の務めのために、全イスラエルの長子の代わりに、レビ族をお受け入れになった。……しかし、祭司職は、アロンの家だけにかぎられていた。アロンとその子だけが主の前で仕えることをゆるされた。レビ族のその他の者たちには幕屋とその備品に関する責任がゆだねられた。……

祭司にはその職務に従って、特別の衣服が定められた。「あなたの兄弟アロンのために聖なる衣服を作って、彼に栄えと麗しきをもたせなければならない」という指示がモーセに与えられた(出エジプト 28:2)。……祭司の衣服と動作のすべては、それを見る者に、神の神聖なこと、その礼拝が清いものであること神の前に来る者には純潔が要求されることなどを、深く感銘させるものでなければならなかった。聖所そのものばかりでなく、祭司の務めもまた、「天にある聖所のひな型と影とに仕え」るものであった(ヘブル 8:5)。(人類のあけぼの上巻 412～414)

人々は毎日、型と影によって、キリストが贖い主、祭司、王として来られることについての大真理を教えられた。そして一年に一度、彼らの心は、キリストとサタンの間の大争闘が終わりを告げ、宇宙の最後の清めが行われて、罪と罪人が除かれる時のことを思わせられたのである。モーセの律法の犠牲と供え物とは、常にはるかにすぐれた務め、すなわち天の務めを指さしていた。(国と指導者下巻 283)

かれ [イエス] の犠牲の功績はわたしたちのかわりに御父の前にささげられるのに十分である。(キリストへの道 44)

わたしたちはキリストの贖罪の血に自由に近づくのである。わたしたちはこれがかつて罪深い人間に与えられた最も尊い特権、最大の祝福として、重んじなければならぬ。(SDA バイブル・コメンタリ [E.G. 初作・コメト] I 巻 1111)

日々の神への献身

「兄弟たちよ。そういうわけで、神のあわれみによってあなたがたに勧める。あなたがたのからだを、神に喜ばれる、生きた、聖なる供え物としてささげなさい。それがあなたがたのなすべき霊的な礼拝である。」(ローマ 12:1)

聖所の務めは、二つの部分から成っていた。すなわち、日ごとの奉仕と年ごとの奉仕とである。日ごとの奉仕は幕屋の庭の燔祭と聖所とで行なわれ、年ごとの奉仕は至聖所で行なわれた。

日ごとの務めは、朝夕の燔祭、金の祭壇における香の供え物、及び個人個人の罪のための特別な供え物から成っていた。そして、ほかに、安息日の供え物、新月の供え物、祭日の供え物があった。

朝に夕に一才の小羊が適当な素祭と共に祭壇で焼かれ、こうして主に対する民族の日々の献身と、キリストの贖罪の血に、彼らが絶えず依存していることが象徴されていた。聖所の務めのためにささげられる供え物は「傷のない」ものでなければならないと、神は言明された(出エジプト 12:5)。……「傷のない」供え物だけが、「きずも、しみもない小羊」(ペテロ第一 1:19)として、ご自身をおささげになる主の完全な純潔を象徴するものとなることができた。使徒パウロは、キリストに従う者たちが自分自身をささげることの例証として、この犠牲を指摘している。「兄弟たちよ。そういうわけで、神のあわれみによってあなたがたに勧める。あなたがたのからだを、神に喜ばれる、生きた、聖なる供え物としてささげなさい。それが、あなたがたのなすべき霊的な礼拝である」。……

朝夕のいけにえをささげるために定められた時間は、聖なる時間とみなされていた。やがて、ユダヤ民族全体は、その時間を所定の礼拝の時間として守るようになった。……この習慣はキリスト者にとって、朝夕の祈りの模範である。神は、礼拝の精神のない単なる儀式をきらわれる。しかし、神を愛し、朝に夕に頭をたれて犯した罪のゆるしを求め、必要な祝福を願う者たちを大きな喜びをもってごらんになる。(人類のあけぼの上巻 414～418)

義の香

「また愛のうちを歩きなさい。キリストもあなたがた（わたしたち）を愛して下さって、わたしたちのために、ご自身を、神へのかんばしいかおりのささげ物、またいけにえとしてささげられたのである。」（エペソ 5:2）

供えのパンは、絶やすことなくささげる常供の供え物として主の前に置かれた。……これは、常に主のみ顔の前に置かれていたために、供えのパン、すなわち「み前のパン」と呼ばれていた。これは、霊肉の食物を神に依存していること、しかも、それがキリストの仲保を通してはじめて得られることを認めたものであった。……マナと供えのパンは、共に、われわれのために常に神の御前におられる生きたパンであられるキリストを示していた。（人類のあけぼの上巻 418）

祭司は、日ごとの務めにおける他のいかなる行為よりも、香をささげるときに、神の御前に一番近づいたのである。聖所の内部のとばりは建物の上部にまで及んでいなかったので、贖罪所の上にあらわれた神の栄光は、第一の部屋からも部分的に見ることができた。祭司は、主の前に香をささげながら、契約の箱のほうを見た。香の煙が立ちのぼるとき、神の栄光は贖罪所の上にくんだり、至聖所に満ちた。そして、それは両方の部屋にまで満ちて、祭司が幕屋の戸口まで退かなければならないことがよくあった。この象徴的な礼拝において、祭司が自分には見えない贖罪所を信仰によって仰いだように、神の民は今、人の目には見えないが、天の聖所で彼らのためにとりなしておられる偉大な大祭司キリストに祈りをささげなければならない。

イスラエルの祈りと共にのぼった香は、キリストの功績と仲保、キリストの完全な義をあらわしている。これは信仰によって神の民のものとなる。そして、ただこれによってのみ、罪深い人間の礼拝が神に受け入れられる。至聖所のとばりの前には、常供のとりにしの祭壇があり、聖所の前には絶え間ない贖罪の祭壇があった。血と香によって、人間は神に近づくことができた—これらは、偉大な仲保者キリストをさし示す象徴であった。この仲保者を通して、罪人は主に近づくことができ、また、このキリストを通してはじめて、あわれみと救いとが悔い改めて信じる魂に与えられるのである。（同上 415, 416）

イエスは個人個人のために死なれた

『キリスト・イエスは、罪人を救うためにこの世にきて下さった』という言葉は、確実に、そのまま受け入れるに足るものである。わたしは、その罪人のかしらなのである。(テモテ第一 1:15)

日ごとの務めのうちで最も重要な部分は、個人個人のために行なわれた務めであった。悔い改めた罪人は供え物を幕屋の戸口にたずさえ、このいけにえに手を置いて罪を告白し、こうして象徴的にその罪を彼自身から無垢の犠牲の上に移し変えた。それから動物は、彼の手で殺された。祭司は、血を聖所に運んで、この罪人の犯した律法を入れた箱の前方にたれておぼりの前に注いだ。この犠牲によって、罪は血によって象徴的に聖所に移された。血が聖所の中にたずさえられない場合もあった。そのときには、……祭司がその肉を食べなければならなかった。これらの儀式は、共に、悔い改めた者から聖所へと罪が移されることを象徴したものであった。

こうした務めが、一年を通じて毎日行なわれていた。このようにイスラエルの罪が聖所に移されたので聖所は汚れ、そのため、罪を取り除く特別のつとめが必要となった。神は、祭壇と同様に二つの聖所の部屋についてもあがないをなし、「イスラエルの人々の汚れを除いてこれを清くし、聖別しなければならぬ」とお命じた(レビ記 16:19)。

年に一度、大贖罪の日には祭司は聖所のきよめのために至聖所にはいった。そこで果たされる務めが、年ごとの務めを完了した。……

すでに述べたように、地上の聖所は山で……示された型に従って……建てられた。それは、「今の時代に対する比喩」であって、「供え物やいけにえ」がさげられた。そのふたつの聖なる部屋は、「天にあるもののひな型」であり、われらの大祭司キリストが、「人間によらず主によって設けられた真の幕屋なる聖所で仕えておられる」(レビ記 9:9, 23; 8:2)。(人類のあけぼの上巻 418～421)

主は神のみ前に現われ……ご自分の民の悔い改めを受け入れ、その祈りにお答えになる用意ができておられる。(サムズ・オブ・タイムズ 1883年11月22日)

イエスの自発的な犠牲

「その時わたしは言った、『見よ、わたしはまいります。書の巻に、わたしのためにしるされています。わが神よ、わたしはみこころを行うことを喜びます。あなたのおきてはわたしの心のうちにあります』と。」(詩篇 40:7, 8)

古代、イスラエルの子らは、儀式的な汚れから自分たちを清めるために、全会衆のための供え物をするようにと命じられていた。この犠牲は赤い雌牛であつて、罪の汚れから贖うより完全な犠牲を象徴していた。これは、必要に迫られ、または偶然に死人に触れたすべての者を清めるための特別な犠牲であつた。どのような方法であつても死んだものに触れた者はみな、儀式上不潔な者とみなされた。これは、ヘブル人の思いに、死は罪の結果もたらされたものであり、それゆえに、罪の象徴であるという事実を強く印象づけるためであつた。一頭の雌牛、一つの契約の箱、一匹の青銅のへびは、印象的に一つの大犠牲、キリストの犠牲を指し示している。

この雌牛は血の象徴である赤色でなければならなかつた。それは、きずもしみもないもので、また、一度もくびきを負つたことのないものでなければならなかつた。ここにもまたキリストが象徴されていた。神の御子は贖罪の働きを成就するために、自発的に来られた。御子には義務としてのくびきは全然なかつた。なぜなら、このお方は独立したお方であり、あらゆる律法を超越しておられるからであつた。神の知的な使者である天使たちは義務としてのくびきの下にあつた。彼らの個人的な犠牲は、墮落した人類の罪過を贖うことができなかつた。キリストのみが、罪を犯した人類を贖うのに律法の要求のないお方であられた。……

イエスは王衣をまとい、王冠を載いて、父なる神の右に座しておられることもできた。しかしこのお方は、あらゆる富や栄誉や天の栄光を人類の貧しさに、高い指揮権の立場をゲッセマネの恐怖とカルバリーの屈辱と苦悩に替えることを選びになつた。……

傷つけられたみ手、刺し通された脇腹、砕かれたみ足は、墮落した人類に雄弁に訴える。その贖いはこのような無限の代価で買い取られたのである。ああ、比類なきへりくだりよ!時の経過も事件も、贖罪の犠牲の効力を弱めることはできない。(教会への証 4 巻 120, 121, 124)

絶えず塗られる主の血潮

「もし、やぎや雄牛の血や雌牛の灰が、汚れた人たちの上にまきかけられて、肉体をきよめ聖別するとすれば、永遠の聖霊によって、ご自身を傷なき者として神にささげられたキリストの血は、なおさら、わたしたち（あなたがた）の良心をきよめて死んだわぎを取り除き、生ける神に仕える者としないうであらうか。」（ヘブル 9:13, 14）

この犠牲の〔赤い〕雌牛は、営外に連れて行かれ、最も印象的な方法で殺された。このようにキリストはエルサレムの門の外で苦しまれた。なぜならば、カルバリーは城壁の外にあったからである。これは、キリストはヘブル民族のためだけではなく、全人類のために死なれたことを示すのであった。このお方は罪を犯した世界に対して、ご自分が彼らの贖い主になるために来られたことを宣言し、彼らに提供した救いを受け入れるようにと強く勧めておられるのである。雌牛は最も厳粛な方法で殺され、祭司は純白の衣を着て、犠牲の雌牛から出た血を手にとって、それを宮に向かって七回ふりかけるのであった。……

雌牛の体は焼かれて灰となったが、それは完全で十分な犠牲を示すものであった。その後、死体に触れて汚されていない人によって、灰が集められ、流れている川からくんだ水を入れた器の中におかれた。そこでこのきれいで純潔な人は、緋色布でくりつけられた杉の棒とヒソプの束を手にとり、器のものを幕屋と集まっている人々にふりかけた。この儀式は七回繰り返され、……それによって、罪からの清めとしての行事が終った。

このように、キリストも、ご自分のしみのない義をもって尊い血を流されて後、聖所を清めるために至聖所に入られた。そしてそこに深紅の潮が神と人を和解させる奉仕にたずさえ入れられる。ある者はこの雌牛を殺すことを無意味な儀式であるかのように見なすかもしれない。しかし、これは神の命令によって行なわれたのであり、今日にもあてはまる深い意味をおびている。……

キリストの血は効力があるけれども、それは絶えずぬられる必要がある。
……

もし、旧約時代に清くない者が、血をふりかけることによって清められる必要があったとすれば、この終わりの危険な時代に生存し、サタンの誘惑にさらされている者にとって、キリストの血を日毎に心にぬることはどれほど重要不可欠なことであらうか。（教会への証 4 巻 121～129）

聖所の中へ

「かつ、やぎと子牛との血によらず、ご自身の血によって、一度だけ聖所にはいられ、それによって永遠のあがないを全うされたのである。」(ヘブル 9:12)

真の犠牲であられるキリストは、紀元 31 年の春、カルバリーでささげられたのである。(国と指導者下巻 300)

キリストが十字架において、「事はすでになつた」と叫ばれたとき、宮の幕が二つに裂けた。ユダヤ国民にとっては、この幕は意味深いものであった。それは紫布と黄金の最も高価なものであり、幅も長さも大きなものであった。キリストが最後の息を引き取られた瞬間、この丈夫な分厚い材料の幕が見えない手によって上から下に裂かれたのを見た証人たちが宮にいた。この行為は、全宇宙に対して、また罪によって墮落した世に対して、墮落した人類のために新しい生きた道が開かれたことと、すべての犠牲の供え物は神の御子という一つの大きい犠牲のうちに終結したことを意味していた。(SDA バイブル・コメント [E.G. 初巻・コメント] 5 巻 1109)

神の御子の死によって、型が本体に合ったのである。……至聖所への道が開かれている。新しい生きた道がすべての人のために備えられる。罪を悲しむ人間は、もはや大祭司が出てくるのを待つ必要はない。これからは救い主がもろもろの天の天において祭司また助け主として務めを行なわれるのである。……罪のいけにえと献げ物はもう終わった。……「神よ、わたしにつき、巻物の書物に書いてあるとおり、見よ、御旨を行うためにまいりました」とのみことばにしたがって、神のみ子がこられたのである(ヘブル 10:7)。キリストは、「ご自身の血によって、一度だけ聖所にはいられ、それによって永遠のあがないを全うされたのである」(ヘブル 9:12)。(各時代の希望下巻 280, 281)

ペンテコステの日にくだった聖霊によって、弟子たちの心は地上の聖所から天の聖所へ向けられた。イエスはご自身の血によってそこへ入り、贖罪の恩恵をご自分の弟子たちにそそがれるのであった。(初代文集 422)

人間の目は、世の罪のためのまことのいけにえに向けられた。地上の祭司制度はやんだ。だがわれわれは、新しい契約の奉仕者イエス……に目をそそぐ。(各時代の希望上巻 194)

人類の長兄イエスは、永遠の御座のかたわらにおられる。(サイン・オブ・タイムズ 1902 年 4 月 16 日)

キリストの働きの中心そのもの

「以上述べたことの要点は、このような大祭司がわたしたちのためにおられ、天にあって大能者の御座の右に座し、人間によらず主によって設けられた真の幕屋なる聖所で仕えておられる、ということである。」(ヘブル 8:1, 2)

聖所とは何かという質問に対して、聖書ははっきりと解答を与えている。聖書に用いられている「聖所」という言葉は、まず第一に、天にあるもののひな型としてモーセが建てた幕屋をさし、そして第二に、地上の聖所が指し示していたところの、天にある「真の幕屋」をさしている。キリストの死によって、型としての奉仕は終わった。天にある「真の幕屋」は、新しい契約の聖所である。(各時代の
大争闘下巻 130)

天の聖所と至聖所は、地上の聖所の二つの部屋によって表わされている。使徒ヨハネは、幻のなかで、天にある神の宮を見ることを許されたとき、「七つのともし火が、御座の前で燃えてい」るのを見た(黙示録 4:5)。彼は、一人の天使が、「金の香炉を手を持って祭壇の前に立った。たくさんの香が彼に与えられていたが、これは、すべての聖徒の祈に加えて、御座の前の金の祭壇の上にささげるためのものであった」のを見た(黙示録 8:3)。ここで、預言者は、天の聖所の第一の部屋を見ることを許された。そして、そこに、地上の聖所の金の燭台と香壇によってあらわされていたところの、「七つのともし火」と「金の祭壇」を見た。再び、「天にある神の聖所が開けて」(黙示録 11:19)、彼は、奥の幕の中の、至聖所を見た。彼はここで、「契約の箱」を見た。それは、神の律法を入れるためにモーセが作った聖なる箱によって表わされていたものであった。……

モーセは、示された型に従って、地上の聖所を造った。パウロはその型となった天の聖所が、真の聖所であると教えている。そしてヨハネは、それを天に見たと証言している。(同上 127)

天の聖所は、人類のためのキリストのお働きの中心そのものである。それは、地上に生存するすべての者に関係している。(同上 222)

キリストは天に昇られたとき、わたしたちの仲保者として昇られた。わたしたちには常に天の法廷に友なるお方がおられるのである。(原稿 76, 1897)

天においてわたしたちのために出て下さった

「ところが、キリストは、ほんとうのものの模型にすぎない、手で造った聖所に入らないで、上なる天にはいり、今やわたしたちのために神のみ前に出て下さったのである。」(ヘブル 9:24)

聖所……の問題は、神の民によってはっきりと理解されねばならない。すべての者は自分たちの大なる大祭司キリストの立場と働きについて、自分自身のために知っている必要がある。……

天の聖所における、人類のためのキリストのとりなしは、キリストの十字架上の死と同様に、救い主の計画にとって欠くことのできないものである。キリストは、ご自分の死によって開始された働きを、復活後、天において完成するために昇天されたのである。われわれは、信仰によって、「わたしたちのためにさきがけとなって、はいられた」幕の内に入らなければならない(ヘブル 6:20)。そこには、カルバリーの十字架からの光が反映している。そこにおいて、われわれは、贖罪の奥義について、もっとはっきりした理解を持つことができる。人間の救済は、天が無限の価を払うことによって達成された。払われた犠牲は、破られた神の律法の最大限の要求に相当するものである。イエスは、父なる神のみ座への道を開かれた。そして、信仰によって彼に来るすべての者の心からの願いは、彼のとりなしによって、神の前にささげられるのである。

「その罪を隠す者は栄えることがない、言い表わしてこれを離れる者は、あわれみをうける」(箴言 28:13)。自分たちの過ちを隠し、言いわけをする人々が、もし、サタンが彼らのことでどんなに喜び、そうした彼らの行為のゆえにキリストと聖天使たちをどんなに嘲笑するかを見ることができれば、彼らは、急いでその罪を告白し、捨て去ることであろう。品性の欠陥を通して、サタンはその人の心全体を支配しようと働きかける。彼は、人がこれらの欠陥に固執するならば、自分が成功を取めることを知っている。それだから彼は、欠陥に打ち勝つことは不可能であるという致命的な詭弁をもって、キリストに従う人々を欺こうと、いつもけんめいになっている。しかしイエスは、傷ついた手と砕かれた体をもって、彼らのために嘆願される。そして、彼に従ってくるすべての者に「わたしの恵みはあなたに対して十分である」と宣言されるのである(コリント第二 12:9)。……それだから、だれでも、自分たちの欠陥は不治のものであると思っはならない。神は、それらに打ち勝つ信仰と恵みをお与えになるのである。(各時代の犬争闘下巻 222, 223)

神の子らのための最高の救い

「しかし彼は、永遠にいますかたであるので、変わらない祭司の務めを持ち続けておられるのである。そこでまた、彼は、いつも生きていて彼らのためにとりなしておられるので、彼によって神に来る人々を、いつも救うことができるのである。」(ヘブル 7:24, 25)

わたしたちの弱さを助けるための備えは、十分に整っている。そして、キリストに来るようにとのあらゆる励ましが与えられている。

キリストは、ご自分のさかれた体を提供して、神の嗣業を買いもどされた。これは人間にもう一度機会を与えるためであった。……キリストは、ご自分のしみのない生涯、従順、カルバリーの十字架上の死によって、失われた人類のためにとりなしをされた。そして、今わたしたちの救いの君は、単なる嘆願者としてではなくて、戦いに打ち勝った勝利者として、わたしたちのために、とりなしをなさるのである。彼のささげ物は完全なものである。そして、主は、わたしたちをとりなすお方として、神の前で、ご自身の汚れなき功績と神の民の祈りと告白と感謝を盛った香炉を持って、ご自分が制定なさったお勤めをしておられる。これらは、キリストの義の香りとともに、芳しい香りとなって神の前に上る。このようなささげ物は、ことごとく神に受け入れられる。あらゆる罪はゆるされておおわれるのである。

キリストは、わたしたちの身代わりであると同時に保証人となることを約束しておられて、どんな人でもおろそかになさらない。主は人類が永遠の滅びにおちいろうとしているのを見るに忍びず、人類のために死に至るまでにご自分の魂を注ぎ出されたのである。主は、自己をみずから救うことができないことを認めたすべての魂にあわれみと同情をよせられるのである。

主はおのきつつ嘆願する者を、必ず助け起こしてください。主は、贖罪によって、つきることのない道徳的能力をわたしたちのために備えてくださったから、必ずこの力をわたしたちのために用いてください。主は、わたしたちを愛しておられるから、わたしたちは、罪も悲しみもともに主の足もとにおけばよい。イエスの顔のどの表情もまたどのことばもすべて主に対する信頼を起こさせる。主の心のままにわたしたちの品性をお造りになる。

単純な信頼のうちに自分を全く主にゆだねる魂に対しては、サタンがどんなに全勢力をあげて来ても、とうてい勝利することはできない。「弱った者には力を与え、勢いのない者には強さを増し加えられる」(イザヤ 40:29)。(キリストの実物教訓 136,137)

真の仲保者

「神は唯一であり、神と人との間の仲保者もただひとりであって、それは人なるキリスト・イエスである。」(テモテ第一 2:5)

キリストの仲保の働きにおいて、神の愛がその完全さのうちに人類と天使たちに表わされた。(サイン・オブ・タイムズ 1910年7月19日)

このお方はあなたのためにとりなされる。このお方はあなたのために嘆願しておられる偉大な大祭司であられる。そしてあなたはイエス・キリストを通して御父の許に来て、あなたの問題を申し出なければならない。このように、あなたは神へ近づく道を見出すことができる。罪を犯しても、希望がないわけではない。「もし、罪を犯す者があれば、父のみもとには、わたしたちのために助け主、すなわち、義なるイエス・キリストがおられる」(ヨハネ第一 2:1)。(教会への証 2巻 591)

キリストはあなたの贖い主であられる。このお方は決して、あなたの不面目な告白を利用するようなことはなさらない。もし、あなたに個人的な性質の罪があるならば、それを、神と人との間の唯一の仲保者であられるキリストに告白しなさい。(健康への勧告 374)

イエスはご自身の品性の白い衣をわたしたちに着せて、父なる神に紹介される。イエスは父のみまえてわたしたちのために懇願される。そしてわたしはすでに罪人の代わりになりました、このわがままな子をごらんにならないで、わたしを見てくださいといわれる。もしサタンが……わたしたちを彼の餌食であると主張して、大声で訴えても、キリストの血はより大きな力をもって嘆願するのである。(祝福の山 11)

天の聖所でキリストがわたしたちのためにとりなしてくださるときに、恵みの御座の前でご自身の血を一瞬一瞬差し出しておられるその働きは、わたしたちが一瞬一瞬の価値を悟ることができるように、心に十分な印象を与えるべきである。イエスはいつも生きていてわたしたちのためにとりなしておられる。しかし、不注意に過ぎた瞬間は決して再び帰って来ないのである。(執事への勧告 111)

イエスのことを考えなさい。このお方はご自分の聖所にお一人でおられるのではなく、ご自分の命令に従おうとして待機している千々万々の天使に囲まれておられる。そしてこのお方は、神に信頼する最も弱い聖徒のために行って働くようにと、彼らにお命じになる。身分の高い者にも低い者にも、富める者にも貧しい者にも、同じ助けが備えられている。(ビュー・アノド・ワールド 1900年5月29日)

キリストは天の聖所におけるご自分の厳粛な働きに携わることをお止めになることはないというこの大いなる事実をよく考えなさい。そして、もしあなたがキリストのくびきを負い、キリストの重荷を負うなら、あなたも、あなたの生ける頭なるお方の働きと同じ性質の働きに携わるのである。(安息日学校への勧告 112)

清められた天にあるもの

「こうして、ほとんどすべての物が、律法に従い、血によってきよめられたのである。血を流すことなしには、罪のゆるしはあり得ない。このように、天にあるもののひな型は、これらのものできよめられる必要があるが、天にあるものは、これらより更にすぐれたいけにえで、きよめられねばならない。」(ヘブル 9:22, 23)

聖所の清めとは何か。……地上の聖所に関連してこうした儀式があったことは、旧約聖書に記されている。しかし、天において、清められねばならないものが、あるのであろうか。ヘブル人への手紙九章には、地上と天の両方の聖所の清めが明らかに教えられている。……

この清めは、型としての儀式においても、実際の儀式においても血によって成し遂げられなければならない。前者は、動物の血によって、後者は、キリストの血によって行なわれる。(各時代の大争闘下巻 130, 131)

きよめというのは血によってなし遂げられるのだから、それは肉体的なけがれをとり除くことではなく、罪からきよめられることでなければならない。(生き残る人々 424)

しかし、罪は、天や地上の聖所とどのような関係にあるのであろうか。(各時代の大争闘下巻 131)

古代においては、民の罪は罪祭の血によって地上の聖所に象徴的に移されたが、そのようにわれわれの罪はキリストの血によって、実際に、天の聖所に移されるのである。そして、罪によって汚された地上の聖所からその罪を取り除くことによって、象徴的な清めが成就したように、天の聖所においても、そこに記録されている罪をとり除くすなわち除去することによって、実際の清めが成し遂げられる。そのためには、だれが罪の悔い改めとキリストを信じる信仰によって、このお方の贖罪の恩恵を受ける資格があるかを決定するために、記録の書を調べる必要がある。(生き残る人々 425)

このとき[最後の審判の大いなる日に]、キリストの贖罪の血によって、真に悔い改めたすべての者の罪は、天の書物から消される。(人類のあけぼの上巻 422)

キリストは、ご自分の民のために、完全で十分な許しと義認だけでなく、彼らが、ご自分の栄光にあずかり、ともにみ座につくことを求められるのである。(各時代の争闘下巻 216)

キリストが日の老いたる者の前に出られる

「わたしはまた夜の幻のうちに見ていると、見よ、人の子のような者が、天の雲に乗ってきて、日の老いたる者のもとに来ると、その前に導かれた。」(ダニエル 7:13)

われわれの救い主は、昇天ののち、われわれの大祭司としての働きを始められた。パウロは次のように言っている。「キリストは、ほんとうのものの模型にすぎない、手で造った聖所にはいらなくて、上なる天にはいり、今やわたしたちのために神のみまえに出て下さったのである」(ヘブル 9:24)。……

1800年にわたって、聖所の第一の部屋において、この務めが続けられた。キリストの血は、悔い改めた信者のために嘆願し、彼らがゆるされ天父に受け入れられるようにしてきたが、しかし彼らの罪は、まだ記録の書に残っていた。型としての儀式において、一年の終わりに贖罪の働きがあったように、人類の贖いのためのキリストの働きが終わる前に、聖所から罪を取り除く贖罪の働きが行なわれるのである。これが、2300日が終了した時に始まった務めであった。その時に、……われわれの大祭司は、彼の厳粛な働きの最後の部分を行なうために、すなわち聖所を清めるために、至聖所に入られたのであった。……

ダニエル書 8:14 に示されているところの、キリストがわれわれの大祭司として、聖所を清めるために至聖所に来られるということ、ダニエル書 7:13 に提示されている、人の子が日の老いたる者のもとに来るということ、そしてマラキが預言した主がその宮に来られるということ、これらはみな、同じできごとの描写である。そして、これはまた、キリストがマタイによる福音書 25 章の 10 人のおとめのたとえの中で語られた、婚宴の席への花婿の到着ということによっても表わされている。(各時代の大争闘下巻 135, 136, 142)

聖所の清めには、調査の働き、すなわち審判の働きが含まれるのである。この働きは、キリストがご自分の民を贖うために来られる前に行なわれねばならない。なぜなら、彼が来られる時には、彼がすべての者に、それぞれの行為に応じて報いを与えられるからである。(同上 137)

最後の精算の日に、地位、階級、富などが、だれかの判決をほんのわずかでも変更することはない。すべてをごらんになる神によって、人々は、純潔、高潔さ、キリストへの愛における自分の状態によって裁かれるのである。(サイン・オブ・タイムズ 1902 年 3 月 13 日)

始まりのしるし

「彼は言った『二千三百の夕と朝までである。そして聖所は清められてその正しい状態に復する。』」（ダニエル 8:14 英語訳）

わたしたちは熱心な預言研究者でなければならない。ダニエルとヨハネの幻の中で表わされている聖所の主題に関して精通するまで安んじてはならない。この主題はわたしたちの現在の立場と働きとに大いなる光を投げかけ、わたしたちの過去の経験において、神がわたしたちを導かれたのだという誤りのない証拠を提供している。それはわたしたちに、清められるべき聖所は、わたしたちが思っていたようにこの地上にあるのではなく、そのときキリストは天の聖所の至聖所に入られたのであって、そこで預言者ダニエルに天使が語った言葉の成就として、このお方の祭司としての最後の働きをとりおこなっておられることを示すことにより、1844年におけるわたしたちの失望の原因を説明している。（伝道 222, 223）

2300日は、紀元前457年の秋に、エルサレムを建て直せというアルタシャスタの命令が実施されたときに始まることになっていた。これを起算点にすれば、ダニエル書9:25～27にある、この期間についての説明の中で預言されたすべての事件の適用が、完全に調和する。……70週、すなわち490年は、特にユダヤ人にかかわるものであった。この期間の終了の後、ユダヤ人は、キリストの弟子たちを迫害することによって、キリストを決定的に拒否し、使徒たちは、紀元34年、異邦人へと向かった。こうして2300年の最初の490年が終わり、あと1810年が残る。紀元34年から1810年がたつと、1844年である。「そして聖所は清められてその正しい状態に復する」と天使は言った。（各時代の大争闘下巻120, 121）

第一、第二、第三天使のメッセージに関するわたしたちの信仰は正しかった。わたしたちが通ってきた道しるべは不動のものである。悪の軍勢はそれらをその基礎からもぎ取ろうと試みるであろうが、また彼らはそのことに成功したとと思って歓喜するであろうが、彼らが勝利することはない。これらの真理の柱は永遠の丘のように固く立ち、サタンとその軍勢の努力に結びついた人間のあらゆる努力によっても動かない。わたしたちは多く学ぶことができる。そして、これらのことが果たしてその通りであるかどうかを知るために絶えず聖書を調べているべきである。（伝道 223）

目をキリストに留める

「われわれの神よ、あなたは彼らを裁かれぬのですか、われわれはこのように攻めて来る大軍に当たる力がなく、またいかになすべきかを知りません。ただ、あなたを仰ぎ望むのみです。」(歴代志下 20:12)

預言者ダニエルは次のように言っている。「わたしが見ていると、もろもろのみ座が設けられて、日の老いたる者が座しておられた。……彼に仕える者は千々、彼の前にはべる者は万々、審判を行う者はその席に着き、かずかずの書き物が開かれた」(ダニエル 7:9, 10)。

こうして、人々の品性と生活が、全地の裁判官であられる神の前で調査され、各人が「そのしわざに応じ」て報いられる重大で厳粛な日が、預言者の幻に示された。日の老いたる者とは、父なる神のことである。……万物の根源であり、すべての律法の源であられるおかたが、審判をつかさどられる。そして、「万の幾万倍、千の幾千倍」の聖天使たちが、仕える者、また証人として、この大法廷に列席するのである(黙示録 5:11)。

「見よ、人の子のような者が、天の雲に乗ってきて、日の老いたる者のもとに来ると、その前に導かれた」(ダニエル 7:13)。……ここに描かれているキリストの来臨は、キリストが地上に再臨されることではない。キリストは、天において日の老いたる者のもとに来られるのであって、それは、彼の仲保者としての働きが終るときに与えられる「主権と光栄と国」とをお受けになるためである。2300日の終わりである1844年に起ると預言されたのは、この来臨のことであって、キリストが地上に再臨されることではなかった。われわれの大祭司は、天使たちを従えて、至聖所に入り、神のみまえに出て下さったのは、……調査審判の働きのためであり、贖罪の恵みにあずかる資格があることを示したすべての人のために贖いをなさるためである。(各時代の争闘下巻 210, 211)

神の民は今日、……わたしたちの偉大な大祭司が……その民のために執り成しておられる天の聖所に目を向けるべきである。(伝道 223)

わたしたちはまもなく聖所のはかりで量られ、わたしたちの名のところに審判の結果が記される。(サイン・オブ・タイムズ 1891年9月21日)

記録によって裁かれる

「神はすべてのわざ、ならびにすべての隠れた事を善悪ともにさばかれるからである。」(伝道の書 12:14)

最終の大いなる贖罪の調査審判の日において、調査されるのは、神の民と称する人々だけである。悪人の審判は、これとは全く別の働きで、もっと後で行なわれる。……天には、人々の名と行為を記録した書物があって、審判の決定は、それによってなされる。……

命の書には、神の働きをしたすべての人の名が記されている。イエスは弟子たちに「あなたがたの名が天にしろされていることを喜びなさい」と言われた(ルカ 10:20)。また、パウロも、その忠実な同労者の名が『『いのちの書』に……書きとめられている」と言っている(ピリピ 4:3)。……

神の御前に「覚えの書」が記されているが、それには、「主を恐れる者、およびその名を心に留めている者の」善行が記録されている(マラキ 3:16)。彼らの信仰の言葉、彼らの愛の行為は、天に記録されている。……

また、人々の罪の記録もある。……隠れた目的や動機も、まちがいなく記録される。

すべての人の行為は神の前で調査され、……天の書物の各自の名の向かい側には、恐るべき正確さで、すべての悪い言葉、利己的な行為、義務の怠慢、隠れた罪、巧妙な偽善行為などが記入されている。天からの警告や譴責をなおざりにしたこと、時間を浪費し、機会を活用しなかったこと、善きにつけ悪きにつけ、及ぼした感化とその広範囲にわたる結果などがみな、記録天使によって記録されている。(各時代の争闘下巻 212,213)

もしあなたの名が小羊の命の書に記録されているならば、万事よしである。自分の過失を告白し、それらを捨て、それらがあらかじめ裁きに持ち出されて、消し去られるように、つねに熱心に備えをしていなさい。(教会への証 5 巻 331)

一人びとりの生活が調査される

「若い者よ、あなたの若い時に楽しみ。あなたの若い日にあなたの心を喜ばせよ。あなたの心の道に歩み、あなたの目の見るところに歩め。ただし、そのすべての事のために、神はあなたをさばかれることを知れ。」(伝道の書 11:9)

審判が指定されていた時、すなわち、2300日の終わる1844年に、調査審判と罪の除去の働きが始まった。これまでにキリストの名をとらえたことのある者はすべて厳密に調査を受けなければならない。生きている者も死んだ者もともに「そのしわざに応じ、この書物に書かれていることにしたがって」裁かれる(黙示録 20:12)。(各時代の争闘下巻 219)

裁き主は「すべての者はその信仰によって義認され、またそのしわざによって裁かれる」と仰せになった。(教会への証 4巻 386)

悔い改めず棄て去っていない罪は、許されず、記録の書から拭い去られない。それは、神の大いなる日に、罪人に不利な証言をする。……

われわれを打ち負かそうとする悪癖に勝利しようとする者は、みな、激しく戦わなければならない。準備は一人一人がしなければならない。われわれは、団体として救われるのではない。一人の者の純潔と献身は、これらの資格を欠く他の人の埋め合わせにはならない。すべての国民は神の前で審判を受けるのであるが、しかし神は、あたかもこの地上にその人一人しかいないかのように、厳密に一人一人を審査されるのである。すべての者が調べられねばならない。そして、しみもしまもそのたぐいのものがいっさいあつてはならないのである。

審判は今、天の聖所において進行中である。長年にわたって、この働きは続けられてきた。間もなく—その日がいつかはだれも知らないが—生きている人々の番になる。神の恐るべき御前で、われわれの生涯は調査されなければならない。今は他のどんな時にもまさって、すべての者が救い主の勧告に心をとめるべき時である。「気をつけて、目をさましていなさい。その時がいつであるか、あなたがたにはわからないからである」(マルコ 13:33)。「もし目をさましていないなら、わたしは盗人のように来るであろう。どんな時にあなたのところに来るか、あなたには決してわからない」(黙示録 3:3)。(各時代の争闘下巻 219～224)

罪の除去

「勝利を得る者は、このように白い衣を着せられるのである。わたしは、その名をいのちの書から消すようなことを、決してしない。また、わたしの父と御使たちの前で、その名を言いあらわそう。」(黙示録 3:5)

審判において、記録の書が開かれるときに、イエスを信じたすべての人の生涯が神の前で調べられる。われわれの助け主であられるイエスは、この地上に最初に生存した人々から始めて、各時代の人々の裁判を行い、現在生きている人々で終わられる。すべての名があげられ、すべての人の事情が詳しく調査される。受け入れられる名もあれば、拒まれる名もある。もしだれかが、罪を悔い改めず、許されないまま、記録の書に残しておくならば、彼らの名は、いのちの書から消されて、彼らの善行の記録は神の覚えの書から消される。……

真に罪を悔い改め、キリストの血が自分たちの贖罪の犠牲であることを信じた者は、みな、天の書物の彼らの名のところに、罪の許し書き込まれる。彼らは、キリストの義にあずかる者となり、彼らの品性は、神の律法にかなったものとなったので、彼らの罪は、ぬぐい去られ、彼ら自身は、永遠の生命にあずかるにふさわしい者とされるのである。……

仲保者イエスは、彼の血を信じる信仰によって勝利した者がみな、その罪を許され、再びエデンの家郷にもどって「以前の主権」を彼とともに継ぐ者となるように、嘆願されるのである。……

イエスが、彼の恵みに浴する人々のために嘆願される一方において、サタンは、彼らを罪人として神の前に告訴する。……

イエスは、彼らの罪の弁解はなさらないが、彼らの悔い改めと信仰を示して、彼らの赦しを主張なさり、天父と天使たちの前で、ご自分の傷ついた両手をあげ、「わたしは彼らの名を知っている」と言われるのである。……彼らの名は命の書に書きとめられている。そして彼らについて、「彼らは白い衣を着て、わたしと共に歩みを続けるであろう。彼らは、それにふさわしい者である」と記されているのである(黙示録 3:4)。(各時代の争闘下巻 215～217)

クリスチャンは、自分たちのための訴訟を引き受けておられるお方、すなわち自分たちの「あわれみ深い忠実な大祭司」を熟考することによって、日ごとに信仰を培うことができる。(サインズ・オブ・タイムズ 1896年11月12日)

先に行なわれる裁き

「ある人の罪は明白であって、すぐ裁判にかけられるが、ほかの人の罪は、あとになってわかって来る。」(テモテ第一 5:24)

調査審判と罪をぬぐい去る働きは、主の再臨の前に完了しなければならない。死者は、書物に記録されたことによって裁かれるのであるから、彼らが調査されるその審判が終るまでは、彼らの罪はぬぐい去られることはできない。……調査審判が終ると、キリストは来られる。そして、たずさえて来た報いを、それぞれの人の行いにしたがってお与えになるのである。(各時代の大争闘下巻 218)

すべての者が書に記された事柄によって裁かれ、彼らの行いにしたがって報いられる。この審判は、人が死ぬ時になされるのではない。(サイン・オブ・タイムズ 1885年4月16日)

型としての奉仕において、大祭司は、イスラエルのために贖罪をなし終えると、外に出て来て、会衆を祝福した。そのように、キリストも、仲保者としての働きを終えられると、「罪を負うためではなしに……救を与え」るために来られて、彼を待っている人々を永遠の生命をもって祝福される(ヘブル 9:28)。祭司が聖所から罪を除去したときに、アザゼルの山羊の上にそれを告白したように、キリストは、罪の創始者であり煽動者であるサタンの上に、これらの罪をすべて置かれるのである。アザゼルの山羊は、イスラエルの罪を負って、「人里離れた地」に送られた(レビ記 16:22)。そのように、サタンは、自分が神の民に犯させたすべての罪を背負って、千年の間、この地上に監禁される。地上はその時、荒れ果てて住む者もない。そして彼は、ついに、すべての悪人を滅ぼす火の中で、罪の刑罰を余さず受ける。(各時代の大争闘下巻 218)

わずかな者、しかり、この地上に生存した無数の者のうちほんのわずかな者が、実に永遠の命に救われるのであって、真理に従うことによって自分の魂を完全にしなかった大衆は第二の死に定められる。(教会への証 2巻 401, 402)

悔い改めた罪人の罪が聖所から除かれているその間に、地上の神の民の間では、清めの特別な働き、すなわち罪の除去が行われなければならない。(各時代の大争闘下巻 141)

時は残りわずか!

「今の時を生かして用いなさい。今は、悪い時代なのである。」(エペソ 5:16)

1879年10月23日の朝2時頃、主の御霊がわたしに臨み、わたしは来たらんとする審判の光景を見た。……神の審判執行される大いなる日が来たかのようであった。千々万々の者が大きな御座の周りに集まり、その御座には大能者のように見えるお方が座しておられた。このお方のみ前に数冊の書物があって、それらの表紙には燃える火の炎のように見える金の文字で「天の台帳」と書いてあった。これらの書物のうち、真理を信じると主張する者の名が書かれた一冊が開かれた。……これらの人々の名が、一人一人呼ばれ、彼らの善行が読み上げられたとき、彼らの顔は聖なる喜びで輝いた。……

別の書物が開かれて、そこには真理を信じると主張する人々の罪が記録されていた。利己主義という全般的な見出しの下に他のあらゆる罪が記録されていた。……み座に座しておられる聖なる方が、台帳を一頁一頁ゆっくりめくられると、その御目がしばらく、一人一人の記録の上に止まった。そのまなざしは彼らの魂そのものを焼き通すかのようであり、同時に、彼らの生活における一つ一つの言行動作は、あたかも火の文字のようにはっきりと彼らの思いの前を過ぎていった。……

ある人々は、地をふさぐ邪魔者として記録されていた。……この人々は自己を第一とし、利己的利益のためだけに働いた人々である。……

そのとき、つぎのような質問が発せられた。「なぜあなたは小羊の血によって、あなたの品性の衣を洗って、白くしなかったのか。……あなたはキリストの悩みに共にあずかることを望まなかったがゆえに、今このお方と共にその栄光にあずかることはできない」。……そして書物は閉じられ、み座におられる方の上着が落ち、神の御子の恐ろしい栄光が表わされた。

そして光景が消えうせた。わたしは自分がまだ地上にいるのを見て、神の日がまだ来ていなかったこと、そしてわたしたちが永遠のために準備をするための尊い恵みの期間がまだ与えられていることを知って、言葉では表現できないほど感謝した。(教会への証 4巻 384～387)

恩恵期間が閉じるとき

「不義な者はさらに不義を行い、汚れた者はさらに汚れたことを行い、義なる者はさらに義を行い、聖なる者はさらに聖なることを行うままにさせよ。」(黙示録 22:11)

神は、わたしたちにこの〔第三天使の〕メッセージが終わる時、すなわち恩恵期間が終わる時を示してはおられない。……いつ恩恵期間が閉じるかに関する特別な光を与えられなかったかとの問い合わせの手紙が何通か来た。わたしにはただ担うべき次のメッセージがあるだけであると答えた。すなわち、だれも働くことのできない夜が来るのだから、昼が続いている今こそ働くべき時である。(レ・ユー・アッド・バールド 1894年10月9日)

イエスが至聖所で立ち上がり、仲保者としての衣を脱ぎ、祭司の装いの代わりに、報復の衣をまといられるとき、罪人のための働きが終る。……罪人のための懇願が終わり、報復の衣を着られるときに、すべての者の恩恵期間が終る。(教会への証 2巻 691)

すべての人の判決が下され、もはや、罪を清める贖罪の血はない。……すると神の霊の抑制力が地から取り除かれる。(人類のあけぼの上巻 217, 218)

その恐ろしい時に、義人は仲保者なしに聖なる神のみ前に生きなければならぬ。悪人の上に置かれていた抑制が取り除かれ、サタンは最後まで悔い改めない者を完全に支配する。……その時サタンは、地の住民を大いなる最後の悩みに投げ入れる。神の天使たちが人間の激情の激しい風を抑えるのをやめると、争いの諸要素がことごとく解き放たれる。全世界は、昔のエルサレムを襲ったものよりもっと恐ろしい破滅に巻き込まれる。(各時代の斗争圖下巻 386)

失っている時間はない。わたしたちはいつ自分の恵みの期間が終るか分らない。……キリストはまもなく来られる。(教会への証 8巻 314)

恩恵期間が終るとき、それは突然、予期せず、すなわちわたしたちが少しもそれを予期していない時におとずれる。しかし、わたしたちは今日、天において汚れのない記録を持つことができ、また神がわたしたちを受け入れてくださることを知ることができる。そして最終的に、忠実であれば、わたしたちは天の王国に集められるのである。(SDA パイブル・コメンタリー [E・G・コト・コト] 7巻 989)

聖徒は世をさばく

「だから、主がこられるまでは、何事についても、先走りをしてさばいてはいけない。主は暗い中に隠れていることを明るみに出し、心の中で企てられていることを、あらわにされるであろう。その時には、神からそれぞれほまれを受けるであろう。」(コリント第一 4:5)

第一と第二の復活の間の千年間に、悪人の審判が行われる。使徒パウロは、この審判を、再臨に続いて起る事件として指し示す。「だから、主がこられるまでは、何事についても、先走りをしてさばいてはいけない……」。ダニエルは、日の老いたる者がきて、「いと高き者の聖徒のために審判をおこなった」と言っている(ダニエル 7:22)。

このとき義人は、王、また神につける祭司として支配する。ヨハネは、黙示録の中で次のように言っている。「また見ていると、かず多くの座があり、その上に人々がすわっていた。そして、彼らにさばきの権が与えられていた」「彼らは神とキリストとの祭司となり、キリストと共に千年の間、支配する」(黙示録 20:4, 6)。パウロが、「聖徒は世をさばく」と予見したのは、この時のことを指しているのである(コリント第一 6:2)。彼らはキリストと共に悪人を審き、その行為を法規の書すなわち聖書と照らし合わせ、それぞれのなしたわざに従って、すべての者に判決を下す。その時、悪人は、それぞれのわざに応じて、受けねばならない苦しみが定められる。そして、それが、死の書の彼らの名のところは記録される。(各時代の大争闘下巻 444)

わたしたちは、自分の犯した突発的な罪のゆえに責められるのではなく、愛の神によってわたしたちに命じられた尊い義務や善行を怠ったために責められるのである。わたしたちの品性の欠点が明らかにされる。その時に、すべて罪に定められる者は、光と知識を持ち、神が才能を委託されたが不忠実であったことが示されるのである。(ユース・インストラクター 1893年6月8日)

サタンと悪天使たちも、キリストとその民によってさばかれる。パウロは、「あなたがたは知らないのか、わたしたちは御使をさえさばく者である」と言っている(コリント第一 6:3) (各時代の大争闘下巻 444)

全地の審判者が、サタンに向かって「あなたはなぜわたしにそむき、わたしの国の民を奪ったのか」と聞きただされるとき、悪の創始者であるサタンはなんの言いわけもできない。どの口も閉じられ、反逆者の全軍は言葉もないのである。(同上 241, 242)

サタンの策略

「身を慎み、目をさましていなさい。あなたがたの敵である悪魔が、ほえたけるしのように、食いつくすべきものを求めて歩き回っている。」(ペテロ第一 5:8)

自己の感情、または印象に頼ることは安全ではない。これらは信頼できない手引きである。神の律法こそ聖潔の唯一の標準である。品性が裁かれるのは、この律法によってである。もし救いの探究者が「何をしたら永遠の生命が受けられましょうか」と尋ねるならば、聖化についての現代の教師たちは「ただイエスがあなたを救われることを信じなさい」と答えるであろう。しかし、キリストがこの質問をされたとき、このお方は「律法にはなんと書いてあるか。あなたはどうか読むか」と仰せになった。そして、質問者が「心をつくし……て、主なるあなたの神を愛せよ。自分を愛するように、あなたの隣人を愛せよ」と答えたとき、イエスは「あなたの答えは正しい。そのとおりに行いなさい。そうすれば、命が得られる」と仰せになった(ルカ 10:26～28)。(ビュー・アズ・ハルド 1886年10月5日)

キリストを信じるにただ表明するだけではなんの価値もない。行為に表わされた愛だけが、本物とみなされる。なお神の目の前で、行為を価値あるものにするのは、愛だけである。……

人々の隠れた利己心が、天の書の中であらわにされている。……天使が天にたずさえていく記録は、実に悲しいものである。キリストの弟子であると称する知的な存在者が世的財産の蓄積や、地上の快樂の追及に没頭している。金銭、時間、才能が、虚飾と放縱のために犠牲にされている。しかし、祈りや聖書研究にあてられる時間、魂のへりくだりと罪の告白にあてられる時間は、ほとんどないのである。

サタンは数えきれないほどの策略を考え出してわれわれの心を捕らえ、われわれが最もよく知っていなければならぬ働きそのものについて、われわれに考えさせまいとしている。大欺瞞者サタンは、贖罪の犠牲と全能の仲保者を明らかにする大真理を憎んでいる。イエスと彼の真理から人々の心をそらすことに万事がかかっていることを、彼は知っているのである。

救い主の仲保の恵みにあずかりたいと思う者は、神を畏れつつ聖潔を完成していくというその義務を、なにものにも妨げられてはならない。(各時代の争闘 下巻 220, 221)

現代の真理に堅く立つ

「それだから、あなたがたは既にこれらのことを知っており、また、いま持っている真理に堅く立ってはいるが、わたしは、これらのことをいつも、あなたがたに思い起させたいのである。」(ペテロ第二 1:12)

わたしたちは、キリストがまもなく来られることを一点の疑いもなく信じている。これはわたしたちにとっては作り話ではなく、現実のものである。わたしたちは、今日わたしたちが信じている教理は現代の真理であり、またわたしたちが審判に近づいているのだということを疑っていないばかりでなく、数年来疑ったこともなかった。わたしたちは、忠実な者と義なる者に不死の仕上げの一触を与えるために、聖天使たちを従え、天の雲に乗って来られるお方にお会いする備えをしているのである。このお方が来られるのは、わたしたちをその罪から清めるためではなく、わたしたちの品性の欠点をわたしたちから取り除くためでもなく、また、わたしたちの気質や性質の弱さを癒すためでもない。もしそれがわたしたちのためになされるとすれば、この働きはすべてその時の前に成し遂げられるのである。

主が来られるとき、聖なる者は聖なるままである。自分の体と精神を、聖潔のうちに、聖化と誉れのうちに守ってきた人々は、そのとき不死の仕上げの一触を受ける。しかし不義な者、聖化されてない者、汚れた者は、永久にそのままである。そのときに彼らの欠点を除き、聖なる品性を与える働きが彼らのためになされることはない。精錬するお方が、そのときにご自分の精錬の工程を進め、彼らの罪と汚れを取り除くために座することはない。……この働きがわたしたちのために成し遂げられるべきなのは、今である。(教会への証 2 卷 355)

神は今、ご自分の民をテストし、試しておられる。品性が発達させられつつある。天使たちは道徳的価値を量り、人の子らのすべての行為の忠実な記録をとっている。……一人びとりの心をお読みになる神は、しばしば思ってもみなかったような暗闇の隠れた事柄を明るみに出されるが、それは真理の発展を妨げているつまずきの石を取り除くことができるためである。(同上 1 卷 332, 333)

永遠のために準備する恩恵期間は、もうこれから先にはない。わたしたちがキリストの義の衣を着なければならぬ時は、この世においてである。主の戒めを守る者のためにキリストがお備えくださった住居を継ぐために品性を形成する機会はまだこれだけである。(キリストの実物教訓 298)

研究 1

三重のメッセージ



現代の真理

神はご自分の民が「現代の真理に堅く立」つことを望んでおられます（ペテロ第二 1:12 英語訳）。そして、預言の霊は、次のように述べています、「真理、現代の真理こそ、人々が必要としているものである」（教会への証 5 巻 718）

「人々に現代の真理を与えなさい。真理を語りなさい。彼らの思いを真理で満たしなさい。真理の砦を築き上げなさい。そして聞くべきではないサタンの理論を思いを持ち込んではいけません。人々が必要としているのは、イエスのうちにあるがままの真理の提示である。」（伝道 624）

わたしたちの必要はどうでしょうか。「わたしたちが個人的に必要としているのは、魂のうちにある生きた証である。すなわち、自分たちが全心を神を探し求めているということ、また生活上あつてはならないと神が宣言なさったことをわたしたちが自分たちの生活から取り除いているという証である。神はわたしたちが世の前に聖なる民であることを望んでおられる。なぜか。それは、現代の真理の光によって救われるべき世があるからである。わたしたちが人々に、暗闇から神の驚くべきみ光のうちに彼らを招きいれる真理を与えるとき、わたしたちの生活は真理の御霊に聖化されて、わたしたちの宣布するメッセージの真実性に対する証言を担うようになるのである。」（世界総会冊子 1909 年 5 月 31 日）

1. この時代のための現代の真理がメッセージを構成する

「わたしは、もうひとりの御使が中空を飛ぶのを見た。彼は地に住む者、すなわち、あらゆる国民、部族、国語、民族に宣べ伝えるために、永遠の福音をた

ずさえてきて、大声で言った、「神をおそれ、神に栄光を帰せよ。神のさばきの時がきたからである。天と地と海と水の源とを造られたかたを、伏し拝め」。また、ほかの第二の御使が、続いてきて言った、「倒れた、大いなるバビロンは倒れた。その不品行に対する激しい怒りのぶどう酒を、あらゆる国民に飲ませた者」。ほかの第三の御使が彼らに続いてきて、大声で言った、「おおよそ、獣とその像とを拝み、額や手に刻印を受ける者は、神の怒りの杯に混ぜものなしに盛られた、神の激しい怒りのぶどう酒を飲み、聖なる御使たちと小羊との前で、火と硫黄とで苦しめられる。その苦しみの煙は世々限りなく立ちのぼり、そして、獣とその像とを拝む者、また、だれでもその名の刻印を受けている者は、昼も夜も休みが得られない。ここに、神の戒めを守り、イエスを信じる信仰を持ちつづける聖徒の忍耐がある」。またわたしは、天からの声がこう言うのを聞いた、「書きしるせ、『今から後、主にあつて死ぬ死人はさいわいである』。御霊も言う、「しかり、彼らはその労苦を解かれて休み、そのわざは彼らについていく」。また見ていると、見よ、白い雲があつて、その雲の上に人の子のような者が座しており、頭には金の冠をいただき、手には鋭いかまを持っていた。」（黙示録 14:6～14）

「この後、わたしは、もうひとりの御使が、大いなる権威を持って、天から降りて来るのを見た。地は彼の栄光によって明るくされた。彼は力強い声で叫んで言った、『倒れた、大いなるバビロンは倒れた。そして、それは悪魔の住む所、あらゆる汚れた霊の巣くつ、また、あらゆる汚れた憎むべき鳥の巣くつとなった。すべての国民は、彼女の姦淫に対する激しい怒りのぶどう酒を飲み、地の王たちは彼女と姦淫を行い、地上の商人たちは、彼女の極度のぜいたくによって富を得たからである』。わたしはまた、もうひとつの声为天から出るのを聞いた、「わたしの民よ。彼女から離れ去って、その罪にあずからないようにし、その災害に巻き込まれないようにせよ。」（黙示録 18:1～4）

「この時代のための現代の真理は複数のメッセージから構成されている。すなわち、第一、第二に続く第三天使のメッセージである。そこに含まれている一切のものと共にこのメッセージを示すことがわたしたちの働きである。わたしたちはこの終わりの時代に、確かなラッパの音を響かせて真理を広め、第三天使の驚くべきはっきりとしたメッセージを盛り上げるための残りの民として存在している。永遠の真理、わたしたちがはじめから固守してきた永遠の真理が、恩恵期間の終結まで、ことごとくその重要性を増し加えて堅持されなければならない。」（原

稿 9 卷 291)

「三天使のメッセージが、その三重の光を世に与えつつ、結合しなければならぬ。黙示録の中でヨハネは、『わたしは、もうひとりの御使が、大いなる権威を持って、天から降りて来るのを見た。地は彼の栄光によって明るくされた』と述べている。……これは世に対する最後かつ三重の警告のメッセージを与えることを表している。」(主よ、来りませ 173)

2. メッセージの必要性

これらのメッセージをお与えになる神のご目的は何でしょうか。それは、ご自分の民の霊的な病を癒し、彼らをその破滅から救うことです。「そのみ言葉をつかわして、彼らをいやし、彼らを滅びから助け出された。」(詩篇 107:20)。「神の日に立ち得る民を準備するには、改革の大いなる働きが成し遂げられねばならなかった。神は、神の民と称する人々の多くが、永遠のために築いていないのを見られ、あわれみのうちに彼らに警告のメッセージを与えて、彼らを昏睡から目ざめさせ、主の再臨の準備をさせようとした。」

この警告が、黙示録 14 章に記されている。ここには、天使が宣言するといわれている三重のメッセージが書かれていて、すぐそれに続いて人の子が来られ、「地の穀物」を刈られる。」(各時代の争闘上巻 400)。

「ヨハネは、教会が経ていくさまさまの興味深い場面を見せられた。彼は、神の民の立場、危険、争闘、そして最後の救済を見た。彼は、地の収穫を实らせる最後のメッセージを記録している。人々は天の倉に取められる穀物になるか、それとも、滅びの火で焼かれる束になるかである。」(各時代の争闘下巻 341)

3. わたしたちはこれらのメッセージを世に伝えなければならない

「第一、第二、そして第三のメッセージの宣布が靈感の言葉によって示されてきた。何一つ取り除かれてはならない。……これらのメッセージをわたしたちは印刷物や説教によって世に与え、すでに起こった事柄やこれから起こる事柄を預言的な歴史の流れの中で示さなければならない。」(著者や編集者への勧告 26)

「わたしは、一群の人々がしっかりと守られて堅く立ち、確立された教会の信

仰をぐらつかせようとする人々には目もくれないのを示された。神は彼らをごらんになってよみされた。わたしは、第一、第二、第三の天使による三段階のメッセージを示された。わたしにつきそっていた天使は言った。

『このメッセージをすこしでも変える者はわざわいだ。このメッセージを本当に理解することが非常に大切だ。魂の運命は、このメッセージをどう受け入れるかにかかっている』。わたしはふたたび三重のメッセージを示され、神の民がどんなに高い代価を払ってその経験を得たかを示された。それは多大な苦難と激しい戦いを経て得られたものだった。神は、彼らを一步一步みちびいて、ついに彼らを動くことのない固い土台の上に置かれたのである。」(初代文集 420, 421)

「黙示録 14 章のメッセージは、わたしたちが世に対して担わなければならないメッセージである。それはこの終わりの時代のための命のパンである。何百万という人類が無知と悪のうちに滅びつつある。しかし神が命の食糧を委ねてくれた人々は、これらの魂を無関心に眺めている。多くの人々が、救いに飢えている人々のための命のパンが自分たちに委ねられてきたことを忘れている。」(教会への証 8 卷 27)

4. これらのメッセージの重要性と時と場所

「天が下のすべての事には季節があり、すべてのわざには時がある。」(伝道の書 3:1)

「これらの壮大なメッセージの永続的でつねに生きている真理の数々の証拠は、教会にとって非常に大きな意味を持っており、また宗教界からこれほどまでに激しい反対を呼び覚ましてきたが、消滅することがない。サタンは絶えずこれらのメッセージの周りに影を落とそうと努力している。こうして、神の民がその重要性と時と場所をはっきりと識別できないようにするためである。しかし、それらは生きており、時の続く限りわたしたちの宗教経験にその力を発揮するのである。」(教会への証 6 卷 17)

「わたしたちには最大の規模と最高の重要性をもつ働きがあることを覚えて、自分たちの狭い利己的な計画を捨てなければならない。この働きにおいて、わたしたちは第一、第二、第三天使のメッセージを響かせている。こうして全地をその栄光で明るくする天からのもうひとりの御使が来るための備えをしているのであ

る。」(教会への証 6 卷 406)

5. 最も尊いメッセージ

「見よ、世の罪を取り除く神の小羊」(ヨハネ 1:29)。「そして、わたしがこの地から上げられる時には、すべての人をわたしのところに引きよせるであろう」(ヨハネ 12:32)。「わたしたちはみな、顔おおいなしに、主の栄光を鏡に映すように見つつ、栄光から栄光へと、主と同じ姿に変えられていく。これは霊なる主の働きによるのである」(コリント第二 3:18)。

「主はその大いなる憐れみのうちに、ワゴナー長老とジョーンズ長老を通して、ご自分の民に最も尊いメッセージをお送りになった。このメッセージは世の前に上げられた救い主、すなわち全世界の罪のための犠牲をもっと顕著に際立たせるためのメッセージであった。それは保証人であられるお方を信じる信仰による義認を提示した。それは民に、神のすべての戒めに対する服従に表されたキリストの義を受け入れるようにと招いた。多くの人はいエスを失っていた。彼らは自分たちの目を、このお方の聖なるご性質、このお方の功績、そしてこのお方の人類に対する変わらない愛に向ける必要があった。すべての権威はこのお方の御手のうちに与えられている。それはこのお方が豊かな賜物を人間に分け与え、ご自身の義という値のつけがたいほど高価な賜物を無力な人間にお与えになるためである。これは神が世に与えよとお命じになったメッセージである。それは大いなる声で宣布され、大規模な聖霊効果を伴うべき第三天使のメッセージである。

掲げられた救い主は、ほふられ、御座の上に座しておられる小羊としての力あるみわざのうちに表されるべきである。このお方は、値のつけがたいほど尊い契約の祝福や、ご自分を信じるすべての魂のためにご自分が買うために死なれた功績を与えようと働いておられる。ヨハネは、この愛を言葉で表現することができなかった。それはあまりに深く、あまりに広がった。彼は人類家族にこれを眺めるようにと訴えている。キリストは上にある天の宮で教会のために嘆願しておられる。このお方はご自身の命の血潮の贖い代を支払われた人々のために嘆願しておられるのである。何世紀を越え各時代にわたっても、この贖罪の犠牲の効力を減退させることはできなかった。このお方の恵みの福音のメッセージは、はっきりと際立った方向性をもって、教会に与えられなければならない。それは、世にこ

れ以上、セブンスデー・アドベンチストは律法、律法と語るが、キリストを教えたり、信じたりはしない、と言わせないためである。

キリストの血の力が新鮮さと力をもって、民に提示されなければならない。それは、彼らの信仰がその功績をしっかりとつかむためである。香炉の香煙が神のみ前に立ち上っている間、大祭司が暖かい血を恵みの御座にふりかけたように、わたしたちが自分の罪を告白し、キリストの贖罪の血の力を嘆願するとき、わたしたちの救い主のご品性の功績に香るわたしたちの祈りが、天に上らなければならない。わたしたちの無価値さにもかかわらず、罪を取り除き、罪人を救うことのおできになるお方がいらっしゃることを、わたしたちは常に思いにとどめていなければならない。このお方は、悔いた心で神のみ前に認める一つ一つの罪を取り除かれる。この信仰が教会の命である。モーセによって荒野で蛇が上げられ、そして火の蛇にかまれたすべての人は眺めて生きようと命じられたように、人の子も上げられなければならない。『それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである。』（牧師への証 91～93）

6. 厳粛で神聖な警告のメッセージが宣布されなければならない

「福音の招待は全世界『あらゆる国民、部族、国語、民族』一に与えられるべきである（黙示録 14:6）。警告とあわれみの最後のメッセージは栄光をもって全地を照らすべきである。それはあらゆる階級の人々、富める者、貧しい者、高貴なもの、卑賤（ひせん）なものに行きわたらなければならない。キリストは、『道やかきねのあたりに出て行って、この家がいっぱいになるように、人々を無理やりにいっぱいまでききなさい』と仰せになる。……このことは大部分個人的な働きによってなしとげなければならない。これがキリストの方法であった。キリストの働きは大部分個人的な面談によってなされた。主は、一人の聞き手に心からの配慮をおもちになっていた。しばしばその一人の魂がイエスから聞いた話を数千の人々に伝えたのである。」（キリストの実物教訓 207, 208）

「厳粛で聖なる警告のメッセージが、もっとも困難な伝道地や最も罪深い都市、また大いなる三重の福音のメッセージの光がまだ明らかにされていないすべての場所で、宣布されなければならない。すべての人が小羊の婚宴への最後の

招きを聞かなければならない。町から町へ、都市から都市へ、国から国へ、現代の真理のメッセージが宣布されなければならない。外面的な見せかけではなく、御霊の力のうちに宣布されなければならないのである。」(驚くべき恵み 27)

「メッセージは、議論によるよりも、神の霊の深い感動によって伝えられる。論拠はすでに示された。種はまかれた。そして今、それが生えて、実を結ぶのである。伝道者によって配布された文書は、その感化を及ぼした。しかし、感動を受けた人々の多くは、真理を十分に理解して、それに服従することを、妨げられていた。けれども、今、光は至るところにゆきわたり、真理は明らかにされ、神の忠実な子供たちは、彼らを束縛していたかせを絶ち切るのである。家族関係、教会関係は、もはや彼らを止める力がない。真理は他の何物よりも尊いのである。諸勢力が力を結集して真理に反対するにもかかわらず、多くの者が主の側に立つのである。」(各時代の犬争闘下巻 383)

(50 ページの続き)

運営(うんえい) され、イエス・キリストが御座(みざ) の右に座しておられます。

天国はクリスチャンの本当の家庭であって、わたしたちは本当にそこにもどりたいのです。しかし、しばらく、わたしたちはこの栄光の王国について他の人々に伝えるという仕事があります。ですから、あなたの天の家庭がどのようなところかを他の人々に話し、どのようにしたら、彼らもそこへ行くことができるかについて教えることによって始めませんか？

どうやって？とあなたは聞くかもしれませんね。

わたしたちは次のように教えられています。

「主は、青年たちがご自分の働き手となるよう任命された。もしすべての教会で、彼らがこのお方に献身(けんしん) するならば、もし彼らが家庭において自己否定を実践(じっせん) し、自分たちの疲れた母親を助けるならば、母親は近所の訪問のために時間を見出すことができるし、またもし機会があれば、彼ら自身あわれみと愛の小さな用事をするによって、助けることができるのである。健康や節制(せつせい) の主題をあつかっている本や読み物を多くの家庭におくことができる。この文書(ぶんしょ) の配布(はいふ) は、重要なことである。なぜなら、このようにして病気の治療に関する尊い知識—医者を呼ぶことのできない人々に大きな祝福(しゅくふく) となる知識—を与えることができるからである。」(医療伝道 320, 321)

「悪しき使者は人を災におとし入れる、しかし忠実(ちゅうじつ) な使者(大使) は人を救う」(箴言 13:17)

ピタパン

■材料（6枚分）

強力粉 ...200 g	好きな具材をたくさん入れて食べられる
全粒粉 ...50 g	ポケットパンです。
ドライイースト ...3 g	生野菜をたっぷり入れて、どうぞ！
塩 ...5 g	
油 ...10 g	
水 ...150 g	

■つくりかた

1. 材料を全部ホームベーカリーに入れて一次発酵まで終わらせます。
2. ガス抜きをして6個に分割。20分ベンチタイムをとります。
3. 再度ガス抜きをしてから3mm程度の厚さに麺棒で伸ばします。
【コツ①】伸ばすときは軽く優しく。押しつぶさないことです。
4. 1枚伸ばしたらシートの上に置き、その上にさらにシートを置いて2枚目、シートを置いて3枚目という風に6枚全部重ねます。
5. 6枚目の上にシートを置いて、その上に濡れ布巾を置いたら二次醗酵15分。
6. 15分たったら布巾とシートを取って表面が乾く状態にして、オーブンを240℃に予熱し始めます。
【コツ②】天板ごと温めましょう！
7. 予熱が終わったら6枚目の生地を表裏逆（乾燥した面を下）にして、5分焼いたら完成です。
【コツ③】2枚目以降も同じです。
8. 焼きあがってからビニールの袋に入れると、切りやすくなります。

【コツ①補足】伸ばすときは打ち粉をしっかり振って、まず表側を優しく伸ばします。裏返して反対側も優しく伸ばします。

【コツ②補足】温度差があると温度が低い側の生地が厚くなってしまいます。天板は必ず熱い状態にします。

【コツ③補足】上に乾燥していない面があるおかげで中の空気に生地がおされて上だけが膨らんでいきます。

ホームベーカリーを使わない方は、材料を全部入れて200回こね、上に湿ったふきんをおいて、湿気のある場所に2倍に膨らむまで1時間～2時間おいて下さい（時間は季節や水温によります）。

教会プログラム (毎週土曜日)

安息日学校 : 9:30-10:45 (公開放送)

礼拝説教 : 11:00-12:00 (公開放送)

午後の聖書研究 : 14:00-15:00

【公開放送】 <http://www.4angels.jp>



聖書通信講座

※無料聖書通信講座を用意しております。

□聖所真理

お申込先 : 〒 350-1391 埼玉県狭山郵便局私書箱 13 号「福音の宝」係
是非お申し込み下さい。



書籍

【永遠の真理】 聖書と証の書のみに基づいた毎朝のよみもの。



【安息日聖書教科】 は、他のコメントを一切加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。



大使(たいし) になれる



「神がわたしたちをとおして働(すず)めをなさるのであるから、わたしたちはキリストの使者(大使)なのである。そこで、キリストに代って願う、神の和解(わかい)を受けなさい。」(コリント第二 5:20)

親愛なる若いお友だちのみなさん：

あなたはいつかキリストのための伝道者(でんどうしゃ)になりたいと思いますか？子供たちはしばしば遠い国に永遠の福音(ふくいん)をたずさえていきたいと夢(ゆめ)見るものです。彼らは自分が大きくなったら、キリストについて人々に教えるときの大きな喜(よろこ)びについて考えます。

あなたは今でも、天のための大使となることができることを知っていますか？

大使というのは、ある王国や国を代表する人のことです。その人は通常、自分の国以外の国で生活します。彼らの良い模範(もはん)や思慮(しりよ)深い態度(たいど)によって、大使は外国の人々に、自分の国がどういうところかを示すのです。

あなたは天国(てんごく)がどういうところか学んだことがありますか？そこは宇宙で一番すばらしいところです。平安と親切(せんせつ)がさかえているところで、罪は住んでいません。完全な政府(せいふ)が神様ご自身によって